

令和5年度三重県沿岸種資源評価（新規）

シャコ

1. 生態的特徴

シャコ *Oratosquilla oratoria* は、日本各地の沿岸域、黄海、東シナ海に広く分布し、内湾の水深 10～30m の泥底に巣穴を掘り、甲殻類や小型の二枚貝類、魚類などを捕食する。大型個体では多毛類も食べる。寿命は 4 歳で、2 歳で体長（頭胸甲前端から尾節中央後端までの長さ）10 cm 以上となり漁獲対象となる。伊勢・三河湾における産卵期は 5～9 月ごろで、体長約 8 cm、約 1 歳で成熟する。産卵後に死亡せず、一度の産卵期に複数回産卵すると考えられている。雌は体内の貯精嚢に長期間精子を保存することができるため、交尾と産卵の時期は必ずしも同期しない。産卵は巣穴の中で行われ、雌 1 個体あたりの産卵数は 1.5 万～28 万と推定されている。雌個体は産卵後も巣穴内で卵塊の保育行動を行う。卵のふ化には水温 20℃、25℃でそれぞれ 21 日、12 日程度を要する。マアナゴやハモによる被食が報告されている。

資源の分布は時期により変化し、特に近年の夏季は底層で発達した貧酸素水塊の影響を受け、知多半島沿岸に漁場が偏在する。また、かつて湾奥から湾口まで広がっていた漁場分布の中心は湾奥に限られるようになっており、分布域の縮小が示唆されている。県内では小型底びき網で漁獲され、主漁期は春から夏。

2. 資源評価の指標となったデータ

小型底びき網で漁獲された 1994～2022 年の伊勢湾漁業協同組合有滝地区の CPUE を整理した。三重県資源評価委員会における資源評価基準 (<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000889584.pdf>) により、資源水準と動向を判断した。

3. 資源評価結果

資源水準：低位

資源動向：減少

4. 資源評価の根拠

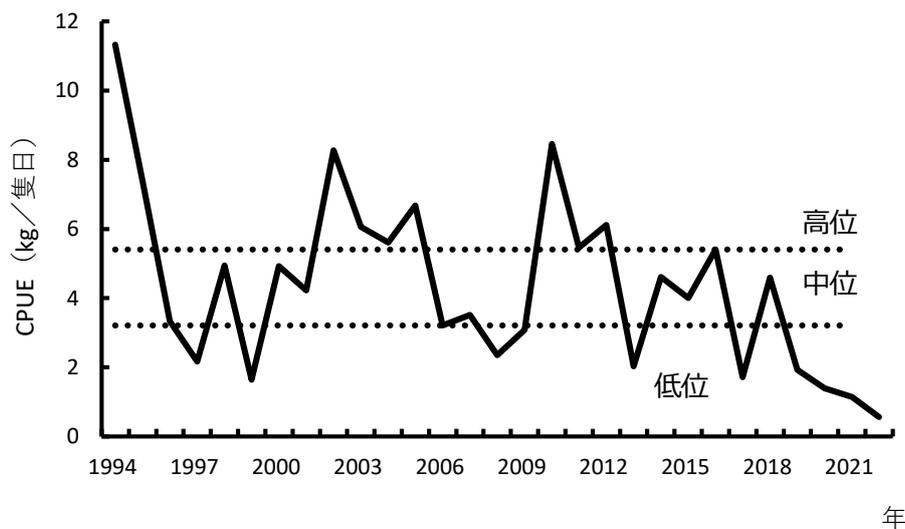


図1 伊勢市有滝地区の小型底びき網における CPUE と資源水準

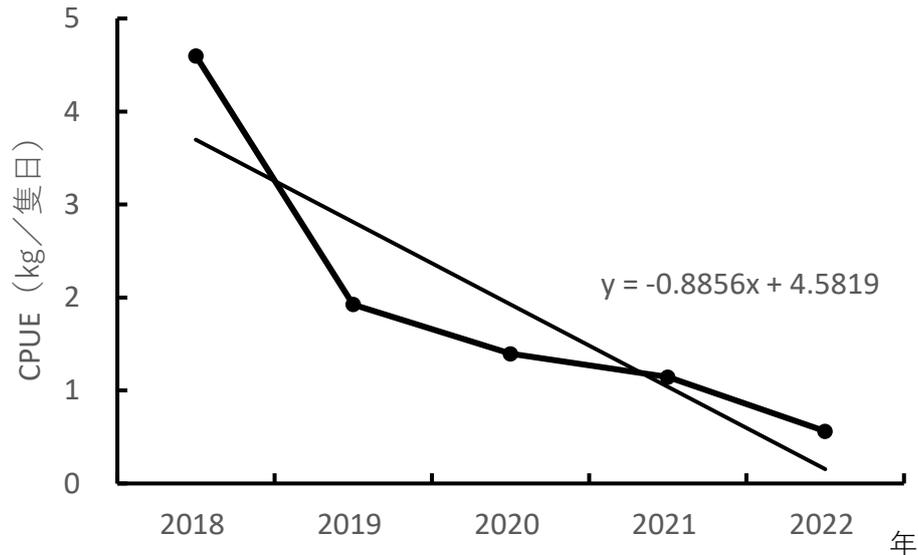


図2 伊勢市有滝地区の小型底びき網における過去5ヶ年のCPUE

・過去29年間（1994年～2021年）の有滝地区におけるCPUEの第一3分位点（3.2 kg/隻日）を低位と中位、第二3分位点（5.4 kg/隻日）を中位と高位の基準値として判断した。2022年のCPUEは0.6 kg/隻日で、「低位」と判断された（図1）。CPUEは2018年までは変動しつつ概ね中位水準で推移していたが、2019年以降は直線的に減少した。

・2018年～2022年の過去5ヶ年のCPUEの回帰直線の傾きは-0.89で、中間年（2020年）の推計値1.93で割ると年変動率は46.1%の減少となることから、動向は減少と判断した。

5. その他関連情報

伊勢湾南部を漁場とする伊勢市有滝地区の漁獲量に、伊勢湾北部の鈴鹿市漁協若松地区（2021年で小底廃業）および三重県農林水産統計による県内集計値（2014以降は推計値）を加えてみると、2013年以降漁獲水準が大きく低下し、2019年にさらに低下してほとんど漁獲がなくなった（図3）。なお、若松地区では有滝地区に比べて減少が緩やかであったことから、北部と南部で資源状態が異なっていた可能性が考えられる。今後、伊勢湾内の資源評価精度を向上させるためには北部の情報を得ることが重要である。

令和5年度のがわが国周辺の水産資源の評価によれば、シャコ伊勢・三河湾系群は愛知県・三重県主要港の小型底びき網標準化CPUEを用いて「低位」、「減少」と評価されている。同評価における2019年以降の著しい資源量指標値の低下は三重県の漁獲量の推移と共通している。県内の漁獲量が著しく減少している中で、関係機関と協働してデータの収集・解析に取り組むため、今後も伊勢・三河湾の資源評価に参画する必要がある。

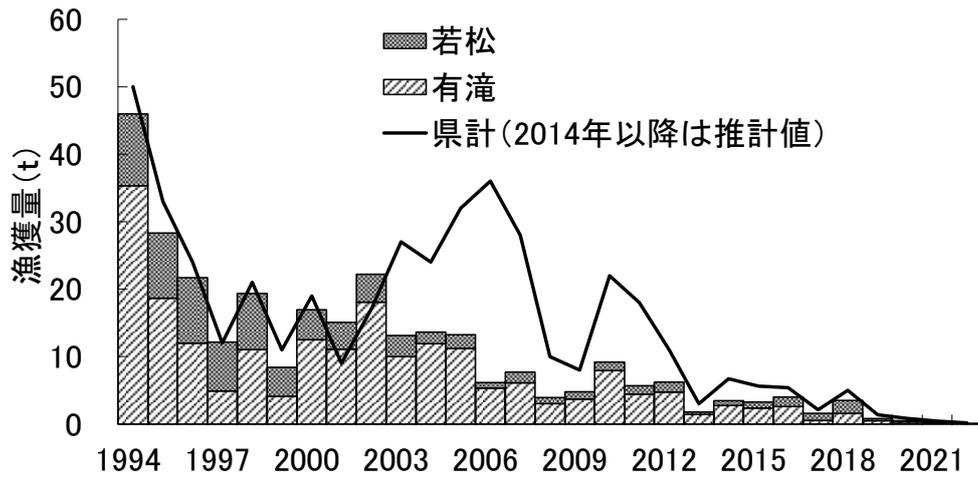


図3 伊勢市有滝地区と鈴鹿市若松地区の小型底びき網, および県合計の漁獲量

6. 謝辞

本評価で使用した漁獲量は関係漁協が取得したものである。